

前 奏 黙想	祈 禱
讚美歌 21 あさ日のごとくに	讚美歌 171 なおしばしの
祈 禱	献 金
信仰告白 使徒信条 566	讚 詠 547 いまささぐるそなえものを
聖 書 創世記 3:17~19	黙 禱
コリントの信徒への手紙一 15:35~38	主の祈り 564
讚美歌 II-182 丘の上に十字架たつ	頌 栄 543 主イエスのめぐみよ
説 教 『からだの復活、私たちもまた』	祝 禱 後 奏

「お前は顔に汗を流してパンを得る、土に返るときまで。お前がそこから取られた土に。塵に過ぎないお前は塵に返る(創世 3:19)」。私たちは塵に過ぎない。「主なる神は、土(アダマ)の塵で人(アダム)を形づくり、その鼻に命の息を吹き入れられた。人はこうして生きる者になった(2:7)」。だから「命の息」が尽きれば土の塵に返るのは自然の理で、ジタバタしようがない。「自分がそこから取られた土を耕すことになった(3:23)」人は「自ら」をも耕し、「顔に汗を流してパンを得る」労苦と喜びを知る。

いずれ「土の塵に返る」にしても、「主なる神は、アダムと女に皮の衣を作って着せられた(3:21)」。人は神による「皮の衣」を着、学び、働き、背き、悔い改め、やがて土の塵に帰る(3:19)。こうした日々は懲罰のごとく語られてるが(3:17~18)、神の愛が、旅立つ私たちに皮の衣と労働を与えた。

ところが土の塵に返る人の間に、「キリストの復活」というとんでもない出来事が起こった。人は皮の衣を着て朽ちていくはずだったが、「この朽ちるべきものが朽ちないものを着、この死ぬべきものが死なないものを着る(1コリント15:54)」者にされた。「[最初のアダムは命のある生き物となった]と書いてあるが、最後のアダムは命を与える霊となった(15:45)」。その霊によって人は朽ちない者にされた。

こう教えられても「死者はどんにふうに復活するのか、どんな体で来るのかと聞く者がいる(15:35)」らしい。復活を認める教会であっても、その奥義は受け入れがたい。この「受け入れがたさ」は素朴に分かる。火葬の後に収骨して思う。霊として召天することは受け入れても、いったい「どんな体で復活する」というのか。コリントの教会は土葬だが、彼らも「体の復活」をいぶかしんでいた。

「愚かな人だ、あなたが蒔くものは、死ななければ命を得ないではないか。あなたが蒔くものは、後でできる体ではなく、麦であれ他の穀物であれ、ただの種粒だ(15:36~37)」。「愚か者めっ」と叱られてシャキッとなっても、種蒔きの比喻でストンと肚に落ちるわけではない。種粒は「靈魂」で、肉体は朽ちても、靈魂は次の肉体として開花するまで種粒のまま存在している、という「靈魂不滅」とは微妙に違う。靈魂不滅の宇宙観は、古代の地中海世界では普通だった。また東アジアにおいては、仏陀の教えがインドの輪廻体系と混交してして、靈魂が生物界を上下に輪廻する仏教教理となった。

こうした土壌では「体の復活」は受け入れがたいが、私たちはそんな「石地」に種を蒔く。続く聖句は「神は御心のままに、それに体を与え、一つ一つの種にそれぞれ体をお与えになる(15:38)」。「主なる神は土(アダマ)の塵で人(アダム)を形づくり、その鼻に命の息を吹き入れられた(創世 2:7)」。その神が「御心のまま~種それぞれに体をお与えになる」。復活とは再創造なのだ。一端「死ななければ命を得ない(1コリント15:36)」新たな命の創造。復活する「体」があるゆえに、「命の息(霊)」を吹き入れられる私が、私として存続する。霊が分裂・結合したり、また輪廻したら、それはもう「私」ではない別の命。しかし「霊の体」としての復活であるから(15:44)、「私」は死んでいても私として存続する。

「実際、キリストは死者の中から復活し、眠りについた人たちの初穂となられた(15:20)」。私たちの「初穂」として復活を証拠づけるに留まらない。「最後のアダムは命を与える霊となった(15:45)」。私たちの日々に聖霊が吹くように、死においても、キリストの命の風が吹きぬける。今日も、永遠に。

復活は再創造 主がもう一度土をこね 私の形につくり 他の土形と同じく 命の息を吹き入れる  
であれば魂や命に差異はない 主が手でこねて形成した体こそ「私」 朽ちて無くなる体こそが私

本日 1:00~教会総会を開きます。重要な審議事項があります。会員の皆さんはご出席ください。

4/22(月)10:00~11:30 八ヶ岳教会の甲府聖研(YMCA)。4/24(水)1:00~2:00 聖研祈禱会。

礼拝堂・集会所の住所：408-0012 山梨県北杜市高根町箕輪 2265-3

連絡・問い合わせは牧師へ：408-0205 北杜市明野町浅尾新田 1324 TEL 0551-25-4008

eメールは komechan.olive@gmail.com HPは「日本基督教団八ヶ岳教会」で検索して下さい。